



**第27年度ソフトウェア品質管理研究会
特別コース活動報告
「ソフトウェア品質保証の基礎」**

2012年2月24日

1. メンバー紹介(1) (研究員9名, 主査1名, 副主査2名)

皆川 一二



デンソーテクノ(株)

効設計46年

現在社内品質教育

中田 光裕



TIS(株)

品質視点での事業部
リスク監視

本年失敗PJの
早期検知重点

中野 隆司



(株)東芝

ソフトウェアテスト技術の
スペシャリスト

11年SQiPシンポ入賞

林 美保



TIS(株)

事業部の**QMS推進**
計画の策定

プロセスQA実施

田中 孝一



日本電気通信システム(株)

原因分析のベテラン

PNA分析の第一人者

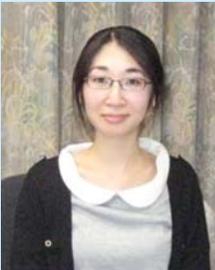
小倉 徹



(株)山武

ビル設備の遠隔監視
アプリケーションの開発

1. メンバー紹介(2) (研究員9名, 主査1名, 副主査2名)

<p>平野 潤子</p> 	<p>新日鉄 ソリューションズ(株)</p> <p>事業部のPMO,QMO プロジェクト管理 プロセス改善</p>	<p>小池 利和</p> 	<p>主査 ヤマハ(株)</p> <p>熱血主査! メトリクスの鬼</p>
<p>松浦 潤</p> 	<p>三菱電機(株)</p> <p>品質企画チーム 方針展開 審査・監査・レビュー 推進</p>	<p>真野 俊樹</p> 	<p>副主査 SQA総合研究所</p> <p>見守る副主査! 品質データ分析の達人</p>
<p>東久保 理江子</p> 	<p>アンリツ(株)</p> <p>開発支援 プロセス監視 アドバイザー</p>	<p>池田 浩明</p> 	<p>副主査 (株)インテック</p> <p>スマートな切り口の 副主査!</p>

2. 特別コース紹介

2-1. 特別コースの全体像



◆ 講義とグループ討議のテーマ

月	講義とグループ討議のテーマ	
5月	講義	ソフトウェア品質管理概論, 香村 求氏 (システムSWAT)
	討議	オリエンテーション、自己紹介
6月	講義	ISO9001/CMMIをベースとしたソフトウェア品質保証活動と品質改善活動の事例紹介, 加藤 秀樹氏 (東芝ソリューション)
	討議	ISO9001/CMMIを用いた改善活動について
7月	講義	品質データ分析技術, 真野 俊樹氏 (SQA総合研究所)
	討議	品質データ分析技術について
	演習	インスペクションワークショップ, 小池 利和氏 (ヤマハ)
10月 (1)	講義	改善技法/改革技法, 金子 龍三氏 (プロセスネットワーク)
	討議	品質改善/改革技法について
10月 (2)	講義	ソフトウェア生産管理技術, 菅田 直美氏 (日本電気)
	討議	ソフトウェア生産管理技術について
11月	講義	レビュー技術, 堀内 純孝氏 (クオリティ)
	討議	レビュー技術について
12月	講義	テスト分析とテスト設計のための実践的アプローチ, 鈴木三紀夫 (元TIS)
	討議	テスト技術について
1月	講義	組込みソフトウェア品質・信頼性マネジメント, 吉岡 幸恵 (オムロンソフトウェア)
	討議	組込みソフトにおける品質保証について
2月	講義	ソフトウェア品質管理の実際, 稲葉 豊茂 (富士通)
	討議	1年間の振り返り (全員が発表)



◆ グループ討議

ねらい： 他の企業の参加者とのディスカッションを通じて、
自社の改善に役立つ情報や知見を交換する

◆ 事前宿題の作成と提出

- ・ あらかじめテーマに関する自社の実態などをA4で1枚程度に整理
 - ①自社での取り組み、特に工夫していること
 - ②自社の課題と考えていること
 - ③他の参加者に聞いてみたいこと、討議したいこと、など

◆ 毎回グループ編成し、異なるテーマについて討議

- ・ 毎回3,4名でグループ編成し、事前宿題をもとに意見交換
- ・ 最後に各グループの討議内容を全員で共有

◆ 事後宿題の作成と提出

- ・ 講義や討議から得た気づきや役立つ情報などを整理
 - ①新たな発見や気づき
 - ②自社に持ち帰りたい、取り組みたいと考えたこと
 - ③その他所感



2-2. アフター【活動事例発表会】

1) ねらい:活動事例を発表し、他参加者の改善に活用する。
飲み食いしながらのリラックス気分で、本音を語り合う

2) 発表テーマ(出席各社の特徴ある活動テーマ)

月	発表者		発表テーマ
10月 (1)	林 美保	TIS(株)	ちけっと活動とその成果
	中田 光裕	TIS(株)	品質データ分析レポート
10月 (2)	松浦 潤	三菱電機(株)	『他山の石』活動
	田中 孝一	日本電気通信 システム(株)	PNA分析法の紹介
11月	小倉 徹	(株)山武	KPT バーンダウンチャート
	中野 隆司	(株)東芝	組み合わせテスト技術導入事例
12月	皆川 一二	デンソーテクノ(株)	DRBFMの背景とDRBFMワークシートの作成
	小池 利和	ヤマハ(株)	SQA活動とデータの活用事例
1月	東久保 理江子	アンリツ(株)	バグ成長曲線



3. 特別コースの評価

3-1. 特別コースは宝箱

◆ 即、活用できるネタの宝庫

例えば…

- ・ 品質データ分析技術
⇒品質教育に早速活用出来た！
- ・ レビュー技術
⇒デザインレビュー教育に活用出来た！
- ・ PNA分析
⇒真因分析教育に活用できた！

◆ 悩みを共有できる素敵なコミュニティ

- ・ 分科会の雰囲気が良い！
- ・ 各分野のエキスパートが講師として理論や実践について丁寧に講義をしてもらった
- ・ 講義と討議で構成されていて「1粒で2度おいしい！」
- ・ 放課後会という自主活動にて各人のプラクティスをより詳しく紹介し議論できた
- ・ 他社で課題と考えていることが共感できることが多く、皆、同じ悩みを抱えていることに気づけた

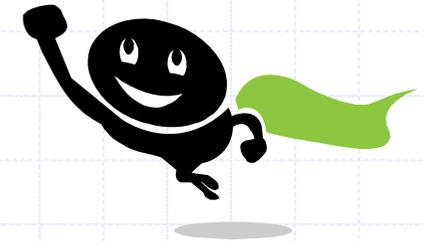


3-2. 特別コースの楽しさ(1)

- ◆ 毎回、多様な講師陣の講義を聞くことができる
- ◆ 幅広い知識を学ぶことができる
 - ・ 「学ぶ」に重きを置いている為、他社の事例や考え方を自社に持って帰って活用するといった用途に向いている。社内に即活用できる『宝』が山のようにある！
 - ・ 今後進むべき研究会を見極めることができる



- ◆ 事前宿題を通して、自社の取り組みや特徴を調べる機会を持てる
- ◆ 事後宿題を通して、講義や討議から得た新たな発見や気づきを整理する機会を持てる



- ・ 主査からコメントを毎回貰うことができ、それが嬉しい♪
- ・ 業務へのモチベーション向上にも繋がる
- ・ 最終的に自社の品質保証全体の状態がわかる

- ◆ 初心者からベテランまで一緒に学べる



3-2. 特別コースの羨ましさ(2)



～アフターの勉強会～

- ◆ 飲み食いしながら参加者各自の実践事例紹介、悩み相談
- ◆ 熱いディスカッションや愚痴、ぶっちゃけトークなどもあり
- ◆ 知見を広めることはもちろん、日ごろのストレス発散、お悩み解消など効果は様々
- ◆ さらにコミュニケーションが深まり、会社以外のコミュニティを形成できた



和気
あいあい！

- ◆ 遅くまであるので、毎回のぞみの終電に乗れる！



新たな発見！
気づき！



3-3.特別コースで新たな発見や気づき(1)

- ◆ 「自社の常識、実は非常識」
 - ・ これまでは“社内の常識・ルール”視点だけ
これからは社外の視点を加えていけそう
- ◆ やっぱり「銀の弾丸」は存在しない
 - ・ 少しでも正解に「近い」と判断ができるように
知識・事例・観点を押えておくべきだ
- ◆ 品質保証の取り組みに「正解はない」
 - ・ 日々苦勞をしてきた中で培った
知識や経験から自社に合った
方法を導き出すものだ



3-3.特別コースで新たな発見や気づき(2)

◆ 品質活動の推進に「自信が生まれた」

- ・ 他社の事例を聞いて、自らが推進していくことに納得感が得られた

◆ 自社の強みや弱みがわかった

- ・ 自社のQMSは重厚長大なものになっていた
- ・ 改善活動の不足が分かった(使いにくいものは定着しない、常にフォーマット・ツール類は改良を重ねることが必要だ)



3-4. 自社で取り組みたいこと(1)

◆ レビュー

- ・ レビューをする側、される側の心構え
- ・ レビューを受けて助かったと思う経験を若いうちにさせる
- ・ インспекションの導入

◆ テスト

- ・ テストの質向上を目指したテスト教育カリキュラムの作成

◆ 分析

- ・ 統計手法の導入
- ・ メトリクスデータの入力-整理の標準化
- ・ 間接メトリクスの解析



3-4. 自社で取り組みたいこと(2)

◆ 職務

- 品質を意識した開発業務
- 品質保証スタッフとしての能力・意識の向上
- 品質保証活動とシステム開発活動が協調できる環境づくり
- 事業部内の品質保証活動の活性化
- 失敗PJ早期検知
- 障害撲滅活動

◆ その他

- プロジェクトのコミュニケーション強化
- QC7つ道具や新QC7つ道具のソフトウェア開発の適用
- KPTの導入
- 品質保証部を毛嫌いしない



3-5. その他所感

- ◆ 特別コースは『架け橋』だ！
 - ・メカ屋とソフト屋を繋ぐ！
 - ・初心者とベテランを繋ぐ！
 - ・会社と会社を繋ぐ！
- ◆ 会社が違っても皆さん悩みは同じなのだ、ということが単純に嬉しくもあり、背中を押された気持ちだった
- ◆ ソフトウェア品質改善ワールド:企業の垣根を越え、業界全体を良くしていこうという「連帯感」を感じた
- ◆ 2文字アルファベットの山に潰されそうだったが、特別コースへの参加を重ね、今や『そのメトリクスはいかがなものか』と言うようになった自分にびっくり！



絆

4. まとめ



- ◆ **当初のコースの目的を達成できた**
 - ・講義からソフトウェア品質保証の基礎を学ぶ
 - ・他企業の参加者とのディスカッションから新たな気づきを得る
 - ・いかに自社で活用するかを考え、自分自身のスキルとする
- ◆ **ソフトウェア品質保証を体系的に学ぶには、『特別コースが世の中で一番良い』と言っても過言ではない**
- ◆ **講義、グループ討議、活動事例発表内容が有意義であり、新たな発見や気づき、自社で取り組みたいことなど数多く挙げられ、まさに『特別コースは宝箱』である**
- ◆ **今年度より、新たにアフター活動(事例発表会)を加え、他社の活動を知り、飲みながらリラックスして参加者の本音が聞ける『一石二鳥の活動』『一粒で二度おいしい活動』である**
- ◆ **現場での活用事例展開という面はこれからの課題である**

5. 要望

- ◆ **特別コース2年生コースを希望します**
もっと勉強したいが、他の分科会では専門的過ぎ、壁が高い！
- ◆ **講師の方々の失敗事例もお話して頂くと嬉しい**
ベストプラクティスだけでなく、バッドプラクティス・バッドノウハウが聞きたい！
- ◆ **他の分科会との交流の機会を増やして下さい**
最初と最後だけでなく、研究会途中で、他の研究会がどのように研究されているのか、見学、意見交換の場があると嬉しい！
- ◆ **前泊研究を希望します**
思いっきり、深い議論ができます！



◆ 謝辞

10か月近くに亘り、ご指導して頂きました、主査、副主査の皆様、講師の方々に御礼申し上げます。

又、このような有意義な研究会参加への機会を与えて頂きました日本科学技術連盟の皆様へ感謝申し上げます。

ありがとうございました。



END

ご清聴ありがとうございました。

